



青少年赤十字だより

平成31年4月10日発行 第58号

編集：群馬県青少年赤十字指導者協議会広報部（日本赤十字社群馬県支部内）

〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 TEL 027-254-3636 赤十字の活動を知りたい人は…日本赤十字社URL <http://www.jrc.or.jp>

育てよう わたしとあなたの リーダーシップ！ ～リーダーシップ・トレーニング・センター開催～

夏休み中に県内各地から小・中学生、高校生の青少年赤十字メンバーが参加する「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」が開催されます。赤城山大沼のほとりにある前橋市赤城少年自然の家を会場に、2泊3日（高校は合計4日）の日程で、多くの児童・生徒が参加しています。（昨年、中学生のトレセンは台風の影響のため中止となりました。）

この研修会では、「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を共同生活の中で実践しながら、赤十字の精神や救急法などを学びます。県内各地から児童・生徒が参加するため、普段は知り合うことのない地域のメンバーとも交流を図ることができました。

トレセンで学んだ3つのこと

群馬県立伊勢崎高等学校 1年 酒井 優華

私は1年生で内気な性格、トレセンに行くまで赤十字や青少年赤十字のことをあまり知りませんでした。今回、トレセンに参加し、多くのことを吸収することができました。その中で3つのことが印象に残っています。

1つ目は、1日目に行われた国際交流です。日赤本社の方が来て説明してくれた赤十字社が行っている国際支援活動です。支援が必要な国に支援をして支えることの大切さ、相手の国を想って支援をすることは、お互いの信頼関係を築き、ひいては平和につながると思いました。お互いの国の実情を理解することは非常に大切なことだと思います。

2つ目は、献血についてです。献血は病気になった人に対して多くを使われることを知りました。しかし若い人の献血率が低いことを聞き、これからは積極的に献血に行くとともに、学校にも知らせ、多くの生徒が献血に行ってもらえたらいいなと思いました。また、たくさんの人に献血について興味と関心を持ってもらうためにJRC活動の一つとして取り組みたいと思いました。

3つ目は、自分で「気づき・考え・実行する」というJRCの態度目標です。私はこんなことくらい簡単と考えていましたが、いざ実践してみると大変でした。気づくことの大変さ、そしてどう解決するか、目標をいかに達成させるかを考えることに相当悩みました。このことから、色々な問題に気づき、実行するのが自分に今必要なことだと強く感じました。これからは、家庭でも学校でもいつも「気づき・考え・実行する」を意識し、生活していきたいと思います。

私は今回のトレセン参加で、知らないことを知り、JRC部員としてまだまだでしたが、人と話すこと、自ら行動することなどトレセンの楽しさを発見しました。伊勢崎高校JRC部のみんなで、赤十字やボランティアのことを学び、小さなことをコツコツと続けながら社会の役に立てるように頑張りたいと思います。



「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」

玉村町立上陽小学校 教諭 武 慎太郎

私は「リーダー」と聞くと、能力が高くて確かな指示が出せて、集団をまとめる力を持つ人というイメージを持っていました。実際、私が学生時代所属していた部活動の主将にはそうした力を求めていると思います。ですが、リーダーシップ・トレーニング・センターにスタッフとして参加し、リーダーには今まで私が思っていたものとは違う、周囲からの助けを受ける力が必要なのではないかと考えるようになりました。

トレーニング・センターの小学校の部は、2泊3日の短期間で行われます。わずかな時間でリーダーシップを身に付けるため、参加する児童は非常に充実した活動を送ります。通常、宿泊行事といえば事前に十分な指導を児童にしたうえで、現場でも様々な指示を教師がして進められていくものだと思います。私が今年度引率した臨海学校も同様でした。しかし、トレーニング・センターは、それとは大きく異なり、児童たちは当日に配布されたしおりや施設に用意された掲示板だけをたよりに、指導者からの指示を受けることなく生活することになります。一つ一つの活動の終わりに、次の活動の説明はされず、「それでは次の行動に移ってください。」と伝えられるだけです。そうした中でうまくやっていくには、しおりや掲示板の情報をしっかり確認をし、時には児童同士で話し合い、適切な行動をとるという青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」力が必要となります。今回私は初めてトレーニング・センターに参加させていただきましたが、児童たちの慣れない生活に適応し、どんどん成長していく姿にとても感動させられました。

トレーニング・センターでの生活を振り返ってみると、うまくいっていた背景には、個々のリーダーシップによるものだけではなく、「フォロワーシップ」というリーダーと同じ志を持ち、リーダーを支えていく力によるものが大きかったように感じます。ただリーダーが集団を引っ張り、導くのではなく、周りがリーダーの意思を理解し、時にリーダーの代わりとなって集団をより良いものへ変えていっていたのです。リーダーとはカリスマ性があり、人をひきつけるような力を持つものというイメージは決して間違いではないでしょう。しかし、ただ自分についてこさせるのではなく、自分の考えを伝え、助けてくれる人の輪を広げる力も、リーダーには必要なのではないでしょうか。集団を導く力と集団から支えられる力、どちらも持つこそリーダーと呼べるのではないかと思います。



小学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

子どもから子どもへ

【前橋市立宮城小学校】



本校では、児童会本部委員会を中心にJRC活動に取り組んでいます。6月の登録式のときは、児童会本部委員会の子もたちが、青少年赤十字の態度目標や実践目標などについて、げきを発表したりクイズを出したりしながら紹介しています。1年生にも分かってもらえるように、劇の内容や言葉づかいなども考えて工夫しています。また、清掃活動、募金活動、あいさつ運動など具体的なJRC活動を紹介することで、「気づき・考え・実行する」意識を高めています。

人を思いやる心を育む活動

【高崎市立新高尾小学校】



本校では、人を思いやり、助け合う活動を進めています。まず元気にあいさつ。みんなが気持ちよく関わられるよう、朝や帰りはもちろん、休み時間でも「こんにちは！」と元気にあいさつが全員の習慣です。また、縦割り班遊びや仲間作りゲームでは、上級生が下級生をリードして、一緒になって楽しく遊んでいます。さらに、JRC登録式・ペットボトルキャップ回収・ユニセフ募金・赤い羽根共同募金も子どもたちの呼びかけから始めるなど、広く人を思いやり、助け合う心が育っています。

自分達にもできるJRC活動

【甘楽町立小幡小学校】



本校では毎年、4、5、6年生が小幡地区の象徴である「桜並木」の清掃を実施し、奉仕の心について考えています。また、保健委員会や児童会を中心とし、プルタブ集めや、ユニセフ募金、赤い羽根共同募金、書き損じはがき集め等の活動にも全校で取り組んでいます。

JRCの活動については、自分達で調べ学習を行うことで関心を深め、「今からできることがあると思うから、積極的に取り組みたい」と考える児童が大勢います。

明るく楽しく、全校が友だち！

【高山村立高山小学校】



本校は、登録式で1年生を全校で温かく迎えることに始まり、毎月のあいさつ運動やペットボトルのキャップ集め、赤い羽根共同募金や書き損じはがきの回収等に意欲的に取り組んでいます。また地域の方に協力していただき、サツマイモや花を育てたり美化作業をしたりしています。「全校が友だち」を目指して、「ジャンケン列車」など全校レクでは全員が楽しむために助け合い励まし合い、縦割り清掃では高学年のリーダーシップのもとに学年をこえて協力している、明るく楽しい学校です。

思いやりの心をはぐくむJRC活動

【みなかみ町立桃野小学校】



本校の教育目標の一つ、「仲良く助け合い 思いやりのある子」を育てるために、JRC活動をはじめとした思いやりの心をはぐくむ取組を行っています。まずはJRCの登録式後、「気づき・考え・実行する」ことの大切さを話しました。飼育・環境委員会による生け花で校内を美化する活動、中学生との合同のあいさつ運動、エコキャップや書き損じはがきの回収、赤い羽根共同募金等、計画された取組だけでなく、6年生による自主的な校内ボランティアも日常的に行っています。

「気づき・考え・実行する」明和東小

【明和町立明和東小学校】



本校では、児童会を中心にJRC活動を行っています。活動の大きな柱は3つあり、『ペットボトルキャップ、ベルマークの回収』、『募金活動』、『あいさつ運動』です。特に今年度は、『あいさつ運動』に重点を置き、「みんなが進んであいさつができるようになるためには」と児童会が中心となり、代表委員会（児童会・各委員会の委員長・上学年の学級代表）で話し合いました。その結果あいさつ当番を登校班でわりふり、登校時に「あいさつ」と「ハイタッチ」で、明るく元気にみんなをむかえることに決まり、それを実行しています。このように、「気づき・考え・実行する」精神をはぐくんでいます。

中学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

小中合同あいさつ運動

【伊勢崎市立境北中学校】



本校では、境采女小学校の児童と、同校の学校運営協議会委員さん、境北中学校の学校評議員さん、地域の青少推の皆さん、各校のPT

A本部役員さんも参加し「小中合同あいさつ運動」を年7回実施しています。境采女小学校の東西3箇所の門に出向き、小学生とともに朝の気持ちの良いあいさつを響かせています。いじめの未然防止活動も兼ねた全校での取り組みです。はじめは小さかった声が次第に大きくなり、登校してくる児童もそれに笑顔で応えていました。

ふれ合いの中で育つ奉仕の心

【渋川市立北橘中学校】



本校では、JRC委員会が中心となり、募金活動や書き損じはがき・エコキャップの回収を行っています。夏休みには、地域の高齢者福祉施設へ訪問しボラン

ティアを行いました。利用者の方の笑顔のために、中学生の合唱や利用者と一緒に作るちぎり絵などを準備し、双方にとって有意義な時間を過ごせました。ふるさとまつりなどの地域行事でも多くの生徒が積極的にボランティアに参加しています。これらの活動を通し、地域の方と交流を深め、思いやりの心を育んでいます。

いじめを生まない雰囲気づくり

【安中市立松井田東中学校】



本校では、生徒会本部や学級委員の生徒が主体となり、赤い羽根共同募金や書き損じはがきなどの寄付活動を中心に取り組んでいます。また、新入生を迎える会で縦割り班のレ

クリエーションを行ったり、生徒会本部の企画の中で、全校生徒で1つの作品を作り上げたりするなど、生徒同士が助け合うあたたかい雰囲気づくりに努めています。それは、地域の方々へも元気なあいさつや親切な行動という形で広がっています。今後も生徒主体の様々な活動を企画し、取り組んでいきます。

感謝と協力

【草津町立草津中学校】



本校では、主に2種類の活動を行っています。1つ目は、保護者や地域の方と協力した活動です。赤い羽根共同募金や資源回収、早朝美化活動という地域の清掃活動など、支えてくださっている方へ

の感謝の心を忘れずに取り組んでいます。2つ目は、校内で生徒同士の活発な交流をうながす活動です。生徒会本部役員などが中心となったあいさつ運動、保健委員会が行うピア・サポート活動です。生徒同士が互いに認め合い、協力しようとする心が育まれています。

地域の一員としての自覚を持って

【片品村立片品中学校】



本校では生徒会本部役員や専門委員会を中心に、赤い羽根共同募金やベルマーク運動等の支援活動、通学路のゴミ拾いや花いっぱい運動等の環境美化活動に取り組んでいます。

今年度は豪雨や地震災害の義援金を募り、村役場や社会福祉協議会へ届けました。また、親子で学校周辺の除草作業を行う活動や体育祭へのお年寄りの招待、文化祭の体験講座で地域の方との交流等、様々な活動を通して地域への関わり方や貢献の仕方を学んでいます。

気づき・考え・実行するために

【邑楽町立邑楽中学校】



本校では、平成14年度より地域ボランティアを実施してきました。普段お世話になっている校区内の各施設に出向いて清掃活動や交流活動等の奉仕活動を行っています。この活動は地域との

結びつきをより強め、地域の方々からの声かけにもつながっています。また、生徒会を中心に中央委員会を実施し、各クラスで話し合うことで「邑楽中いじめ防止宣言」「SNSいじめ防止宣言」などの作成を行いました。生徒一人ひとりが主体的に気づき・考え・実行する邑楽中生を目指し、努めています。

高等学校 青少年赤十字活動紹介

前橋女子高等学校 JRC・ユネスコ部

【群馬県立前橋女子高等学校】



本校のJRC・ユネスコ部は、平成31年1月現在、1年生8名、2年生4名の計12名で活動しています。

日頃の校内での活動は、手話学習や募金活動などです。手話学習では挨拶などの定型表現のみならず、文法も身に付けて、自分自身の考えをある程度自由に伝えることができるようになることを目標にしています。

また、前橋地区の合同のJRC活動や、県全体のJRC活動にも積極的に参加する生徒が増えて、活動の場が広がりました。

今後も生徒たち自身で活動を企画し運営する場面を多くできるように心掛けて、生徒の活動を見守っていききたいと思います。

～地域貢献を目指すJRC委員会～

【群馬県立尾瀬高等学校】



尾瀬高校JRC委員会は、介護施設訪問、環境ボランティアや街頭募金運動に参加するなど、様々な活動に取り組んでいます。

介護施設訪問では、『桜花苑』に訪問し、茶を点て、施設の利用者をもてなすといった活動を行っています。これらの活動を通して、地域の方とコミュニケーションをとる様子が見られ、主体的に活動に取り組んでいます。

これからも本校JRC委員会は日頃見守ってくださっている地域の方に感謝し、地域貢献ができるよう、様々な活動に取り組んでいきます。

地域の人々のために…

【東京農業大学第二高等学校】



本校のJRC・ボランティア部は昨年2月から2名の部員で活動を始めました。地域に貢献することを重点にしています。週に3日間は地域の学童クラブへお手伝いに、月1回は老人ホームへの慰問と群馬県立歴史博物館のワークショップでお手伝いをしています。

元気の良い子どもたちとどのように接すればよいのか、年配の方々に楽しんでいただくために何をすればよいのか、試行錯誤しながら経験を積み重ねています。活動後は日誌をつけ振り返りをし、改善点を共有しています。

まだ活動を始めて一年も満たないですが、いろいろな方々との触れ合いを大切に自分たちにできることを継続していこうと頑張っています。

まだ活動を始めて一年も満たないですが、いろいろな方々との触れ合いを大切に自分たちにできることを継続していこうと頑張っています。

初めてのJRC活動

【群馬県立富岡特別支援学校（高等部）】



本校には、今年度より高等部ができました。現在の生徒数は1年生の5名のみで、少人数ながら楽しく過ごしています。今年度はあいさつ運動を行い、校内だけでなく地域の学生に向けてもあいさつの輪を広げることができました。また、近くの公園の美化活動、そして富岡公民館にご協力いただき清掃活動などもさせていただきました。これらを通して、ボランティアの精神や思いやりの心を育み、今後も更に活動の幅を広げていきたいと思っています。

また、近くの公園の美化活動、そして富岡公民館にご協力いただき清掃活動などもさせていただきました。これらを通して、ボランティアの精神や思いやりの心を育み、今後も更に活動の幅を広げていきたいと思っています。

国際交流集会“Tokyo2018”に参加して

【群馬県立伊勢崎高等学校 2年 高橋 梨花】



11月22日～11月25日に40名の海外メンバーと37名の国内メンバーが集まった国際交流に参加しました。活動紹介や文化交流、フィールドワークなど様々なプログラムがありました。

国際交流に参加して自分の中で1番変わったのは、視野が広がったことです。世界に目を向けることは大切な事だと思いました。言葉の壁はあったけれど、海外メンバーや日本メンバーと過ごした4日間は本当に楽しかったです。世界中に友達ができたことは、私にとって1番の宝です。

県高等学校文化連盟JRC専門部県外研修会に参加して

【群馬県立館林商工高等学校 2年 橋本 理奈】



昨年12月25日、日本赤十字社本社と東京消防庁本所防災館で県外研修会が行なわれました。

午前は日本赤十字社本社を訪問し、日赤本社と支部の仕組みや、日々取り組んでいる活動を学んだほか、災害が起きた時に必要な救援物資が揃っている倉庫を見学しました。いざというときの備えがそこにあり、日赤の原動力はここにあると思いました。

午後は東京消防庁本所防災館で暴風雨体験などの様々な災害体験を通して、防災・減災について学びました。暴風雨体験では、災害レベルの強風と大雨を体験し、その凄まじさを知るとともに、災害の恐ろしさを改めて感じました。

今回の県外研修で学んだことや体験を今後の活動に生かし、防災・減災についての正しい知識を広めていけたらと思います。

シンガポール派遣報告

～日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字海外派遣～

日本赤十字社北関東三県支部（群馬、茨城、栃木）では、7月22日～7月27日の6日間、青少年赤十字メンバー15名と指導者3名をシンガポール赤十字社へ派遣しました。シンガポールの歴史や政治、住んでいる民族について学び、赤十字施設の視察やシンガポールメンバーと交流を図りました（本県からは高校生4名、中学生1名、指導者1名を派遣）。

群馬県立前橋女子高等学校 1年 根岸 美葉

私はこの研修を通して、多くのことと向き合うことができました。またこれからのJRC活動やボランティア活動への意欲がさらに芽生えた、有意義な時間になりました。

先進的な外国語教育に刺激を受けたり、現地の赤十字関係の施設を訪問し日本との相違点を肌で感じたりし、何もかもが新鮮で胸に響くことばかりでした。特に血液バンクでは日本、シンガポールの両国ともまだまだ献血への意識が低いことや少子高齢化社会においての献血をどのように進めていくかが課題であると感じ、高校生の私にもできることを見つけたいと強く思いました。また、多文化社会であるシンガポールの人々が互いの文化や宗教などを尊重し認め合い、共に生活していることが印象に残っています。

今回、高校生という立場で派遣事業に参加することができたこの貴重な経験は一生の財産です。自分の身で感じ、自分の頭で考え、自分で持った意志はかけがえのないものになると思います。この派遣に参加できたことで私の中に多くの小さな種が芽生え、それを成長させ、吸収したことを何倍にも大きなものに変えていきます。



群馬県立前橋東高等学校 2年 新井 瑞生

現地では多くのことを学び、考え、青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」を達成することができました。特に印象に残ったのは、シンガポールでは福祉施設の費用の半分を民間団体が、残りを政府が負担し、高齢化社会に対応し、高齢者や体の不自由な方を社会全体で支えていることです。日本も“少子高齢化”という同じ課題に直面しているけれど、シンガポールでそういった活動が行われているのに対し、日本は高齢者やその家族をサポートしきれていないと感じました。

シンガポールは多民族国家であるため、街中を歩いたり、公式訪問をしたりした際には、肌の色や民族、文化などにかかわらず、互いを尊重しあって生活する様子が印象的でした。

現地では、訪問先、店、機内など英語を話す機会が多くあり、自分の英語力の未熟さを改めて実感しました。将来英語を使って外国人とかわりたえている私には、まだまだ勉強が必要だということに気づかされました。

この派遣で得たことを発信し、活動の幅を広げていきたいと思います。

群馬県立高崎東高等学校 2年 小此木 勇人

僕が今回参加させていただいたシンガポール派遣は、多文化交流や海外の赤十字の現状について知るためのよい機会になったなと思います。

現地の方々はとてもフレンドリーで、日本のアニメについて知っている人や日本語を少し話せる人がたくさんいて驚きました。そんなフレンドリーな国であるシンガポールの赤十字は、日本とは違った観点で物事をとらえていて新鮮に感じました。シンガポールでは、プロスポーツ選手や赤十字の支援によって救われた人々のインタビューなどで赤十字をアピールしていました。日本では、芸能人などがそういった活動をしていることが多い気がします。シンガポールは自己表現力の高い人が多く、国民に赤十字を認知させる活動が上手であるように感じました。

今回経験した様々な事は、今後の部活動だけでなく僕の人生にも大きな影響を与えていくと思います。それほどまでに、今回の派遣は僕にとってとても重要な意味を持つものになったと感謝しています。皆さんも今後このような機会があったらチャレンジしてみたいかがでしょうか。



前橋育英高等学校 2年 羽鳥 寧里

この研修は私にとって、日本以外での赤十字活動を知ることだけではなく、自分たちのJRC活動を見直すよい機会となりました。

その中で一番印象に残っているのは、ピースヘブンナーシングホームです。この訪問をきっかけに、日本人も高齢化に真剣に向き合うべきだと感じました。また、施設の方の「人生はとても短い。その中で、多くの人に親切に生きていく。そのことがより良い世の中を作ります。だから、皆さんも家族を大切にしてください。」という言葉が、大きく心に響きました。高校生の私たちは大きなことをできなくても、身近なことで、できることはたくさんあると確信しました。

今まで、他の国の赤十字活動など想像もできない程遠い存在だと感じていました。この経験を通して、世界に目を向け、日々のJRC活動に生かしJRCのことを多くの人に知ってもらい、より充実した活動にしたいです。

この派遣事業に関係してくださった皆様に感謝しています。憧れの派遣事業に参加できたこと、皆に出会えたこと、すべてが私にとってとても素晴らしい宝物です。

前橋市立鎌倉中学校 3年 鈴木 朝絵

私はシンガポール派遣で、素敵な仲間と出会うことが出来ました。群馬県や他県のメンバー皆がとても親切で、元氣や勇気をもらえました。また、指導者の方々や、旅行会社の方、そして現地のガイドの方にはとてもお世話になりました。一緒に活動したのは、一週間強でとても短かったですが、絆は深くなっていて、別れる時にはとても悲しくなりました。

そんな仲間と過ごした派遣では、いろいろな感動がありました。現地の方々に発表するために、皆で一生懸命練習した手話を通して、気持ちを共有出来た気がして、すごく感動しました。次に、現地の人とのコミュニケーションです。なかなかうまくはいきませんでした。勇気がなく、話しかけられなかったり、話しかけてもうまく伝わらなかったりしました。自分の英語を話す力の無さを実感しましたが、それでも現地の方は笑顔で受け入れてくれ、感動しました。

今回のシンガポール派遣は、とても貴重なものとなりました。この派遣のことは、大人になっても忘れないでしょう。この経験をどんどん活かしていきたいです。



日本赤十字社群馬県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが青少年赤十字に関心を持ち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してください。

青少年赤十字「作文」コンクール入賞者

小学生の部

受賞区分	学 校 名	氏 名	学年	作 品 名
アンリー・デュナン賞	館林市立第一小学校	木村 莉子	6	あたりまえに感謝
人道賞	館林市立第二小学校	松本 柚咲	6	災害とわたしの思い
	館林市立第六小学校	嶋崎 初風	6	ボランティアの輪を広げよう
	館林市立第六小学校	田口 瑞空	6	青少年赤十字募金活動
JRC 賞	館林市立第六小学校	大野 陸	6	気づき、考え、実行する
	明和町立明和東小学校	鎌田 理那	6	青少年赤十字について

中学生の部

受賞区分	学 校 名	氏 名	学年	作 品 名
アンリー・デュナン賞	館林市立第四中学校	鷲澤 稜河	3	意外と簡単な奉仕活動
人道賞	上野村立上野中学校	上野 莉子	1	献血の大切さ
	伊勢崎市立宮郷中学校	今井 愛夏	2	支え合いのあたたかさ
	館林市立第二中学校	伊藤 結愛	2	気づき、考え、実行する
JRC 賞	館林市立第四中学校	高原 聖奈	2	赤十字活動について
	館林市立第四中学校	本橋 大輔	3	言葉の壁を乗り越えて

高校生の部

受賞区分	学 校 名	氏 名	学年	作 品 名
アンリー・デュナン賞	関東学園大学附属高校	西谷 昭徳	2	Our world.you move. ～助け合う勇気～
人道賞	群馬県立高崎東高校	高野真里奈	2	私が気付いて考えたこと
	群馬県立伊勢崎高校	高橋 梨花	2	これからの人生、私にできること
JRC 賞	群馬県立大間々高校	金子真理奈	2	献血の大切さ
	群馬県立前橋高校	生方 颯真	2	僕の JRC
	群馬県立高崎東高校	平柳 楽人	2	支え合う未来の架け橋

学校奨励賞 受賞校

○小 学 校…高崎市立久留馬小学校、館林市立第六小学校、館林市立第九小学校
○中 学 校…上野村立上野中学校、群馬県立中央中等教育学校
○高等学校…群馬県立高崎東高等学校

※学校奨励賞は応募総数、応募率等を基に決定しています。

青少年赤十字「ポスター」コンクール入賞者

アンリー・デュナン賞 (最優秀賞)
館林市立第一小学校
6年生
川島 瞳依

人道賞 (優秀賞)
明和町立明和東小学校
2年生 野口 遙太

人道賞 (優秀賞)
館林市立第六小学校
5年生
原 美梨花

人道賞 (優秀賞)
館林市立第一小学校
6年生
山田 奈波

アンリー・デュナン賞 (最優秀賞)
群馬県立中央中等教育学校
3年生
後藤 柚香

人道賞 (優秀賞)
伊勢崎市立第一中学校
2年生
青木 寧音

人道賞 (優秀賞)
群馬県立中央中等教育学校
3年生
菅原 琉楓

人道賞 (優秀賞)
群馬県立中央中等教育学校
3年生
原 菜々花

JRC賞 (佳作)
渋川市立長尾小学校
4年生 猪熊 那奈

JRC賞 (佳作)
みどり市立笠懸小学校
6年生 富田 沙里

JRC賞 (佳作)
高崎市立久留馬小学校
6年生
清水 蒼海

JRC賞 (佳作)
伊勢崎市立第一中学校
2年生
吉野 美希

JRC賞 (佳作)
群馬県立中央中等教育学校
3年生
中村胡々乃

JRC賞 (佳作)
群馬県立中央中等教育学校
3年生
黛 萌夏

JRC賞 (佳作)
群馬県立高崎東高等学校
1年生 長井 飛鳥

JRC賞 (佳作)
群馬県立高崎東高等学校
1年生 吉原 藍璃